

令和3年7月2日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第54回（通算第133回）定例会 会議録

- ◆日時：令和3年6月15日（火） PM7：05～8：20
◆場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室
◆出席者： 35名

別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：20】

19：05～ 開 会

19：05～19：15 わたしの仕事をしってください
「訪問看護ステーション でいご」

19：15～19：50 研 修
「コンチネンスケア（排泄ケア）の重要性」
～排泄アセスメントの実際～
講師：EAファーマ株式会社 奥野 恵司氏

19：50～20：20 意見交換・発表

20：20 閉 会

【研修内容】

EAファーマ制作の排泄ケアの研修用ツール（解説動画）をもとに研修

【意見交換】

- ・おむつ体験をしてみた経験がある
 - 便は出せない。羞恥心を感じる
 - 人に世話をしてもらうのがつらい
 - 実習でしたけど嫌だった
- ・視覚や嗅覚で抵抗感がある
- ・介助される相手に感じる思いには個人差がある
- ・“毎日便を出さなければ”というこだわりが強い
 - 薬で調整しても個人差がある。週に2回でるぐらいでコントロールしている
 - 透析の利用者では、透析の日に排便しないように調整
 - ツボ刺激
- ・人は「食べて」「出す」が基本
- ・腹圧をかけやすい体勢の工夫も重要。足を踏ん張れるように台を置くとか
- ・新しい薬についてもいろいろと教えてほしい
- ・リハビリだけで入っている利用者でも看護師と相談して排便コントロールをしている
- ・認知症の人では尿意が便意がキャッチしにくいので、支援がむずかしい
- ・排泄ケアの新しい機器が出てくることに期待
- ・摘便のコツ
- ・研修でみた動画は、おむつをしている側の気持ちがよくわかった
- ・自宅に訪問した時に排便している利用者を見る桁らどうするか？を考えてみた
 - とりあえず交換はしてみるけど、やることに必死で相手のことまで思いやれるか不安
- ・若い人は特に排泄に対する抵抗感が強い
- ・医師の中にも排便コントロールに意識の高い人とそうでない人がいるので、医療職から提案することもある

⇒医療や介護の現場では、排せつケアに関わることが多い。
でも、慣れてしまっただめということを再認識できた
相手を思いやる気持ちが大切

※定例会開催にあたっての感染症対策

- ・体調確認と非接触型温度計による体温測定
- ・手指消毒
- ・マスク着用
- ・定例会後の机、いすの消毒
- ・換気

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和3年7月20日（火） 午後7時～

場所：田辺市民総合センター 1F 機能訓練室

内容：しごと紹介「訪問看護ステーションはる」

研修 未定